

●●● CSV (共通価値の創造) ●●●

CSR のその先へ

■ハルナグループの企業行動指針の基本的使命である「三方よし」の精神を目指して

- ・ CS (顧客の喜びや感動) 買い手よし
- ・ ES (社員のやり甲斐) 売り手よし
- ・ CSR (社会からの支持) 世間よし

ハルナグループは、顧客や社員のロイヤルティ（信頼性・誠実性）を高め、企業の持続的発展の基盤となる CSR（企業の社会的責任）に加えて、ステークホルダー全体とともに社会的課題の解決や経済的価値の創出を目指していくこと即ち、「共益の創造」がこれからの時代ますます重要と考えています。

事業を通じて経済的な成果と社会的イノベーションを長期的に結びつけ、企業責任となる持続可能性と同時に共通価値の創造に取り組み、グループの企業価値の向上に邁進します。

Chief Executive Officer
青木 麻生

ハルナグループは顧客の喜びを通して学び成長することを目的としています。仕事環境を通して、成長していくためには、各担当、各社の間で常に協力と連携をとり、ステークホルダーの皆様の幸せとビジョン達成に向けた具体的な活動であることが大切です。そして、社員全員の努力と成果は、社会に必要とされる企業としての使命であると感じています。業務執行を通し、挑戦し続ける集団へ！ 常にイノベーションと企業価値向上、そして【知行合一】学び行動する企業を目指し、努力精進してまいります。

Chief Operating Officer
中澤 幹彦

志の原点に立ち戻り、課題に対し具体的かつ定量的な指標 KPI を設定し、行動目標に落とし込むとともに、社員一人ひとりに自覚を持たせ行動させていくことが重要であると考えています。そこから生まれるイノベーションで社会的価値と経済的価値を結びつけ、「社徳」ある企業へ挑戦し続けていきます。

Chief Financial Officer
栗原 健一

コーポレート・ガバナンス

ハルナグループ コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

■コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

ハルナグループは、「創業の精神」「企業理念」「ハルナグループ企業行動指針」に基づき、持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、公正かつ透明な企業活動を行うために、権限と責任を明確にした意思決定とこれを監視、評価する体制を整備し、より良いコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組むこととする。

- ①ハルナグループは、株主およびお客様、社員、取引先、地域社会等のステークホルダーの皆様との間において、良好な関係を維持するとともに企業としての社会的責任を果たすためコーポレート・ガバナンスの充実に努める。
- ②ハルナグループは、財務情報等の会社情報の適切な開示を通じて、企業経営の透明性確保に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスを創造的に進化させ、企業価値の向上に努める。

■経営理念・ビジョン

ハルナグループの役員・社員は、下記の経営理念およびビジョンを共有し、実現に向けて継続的に取り組むこととする。

●経営理念

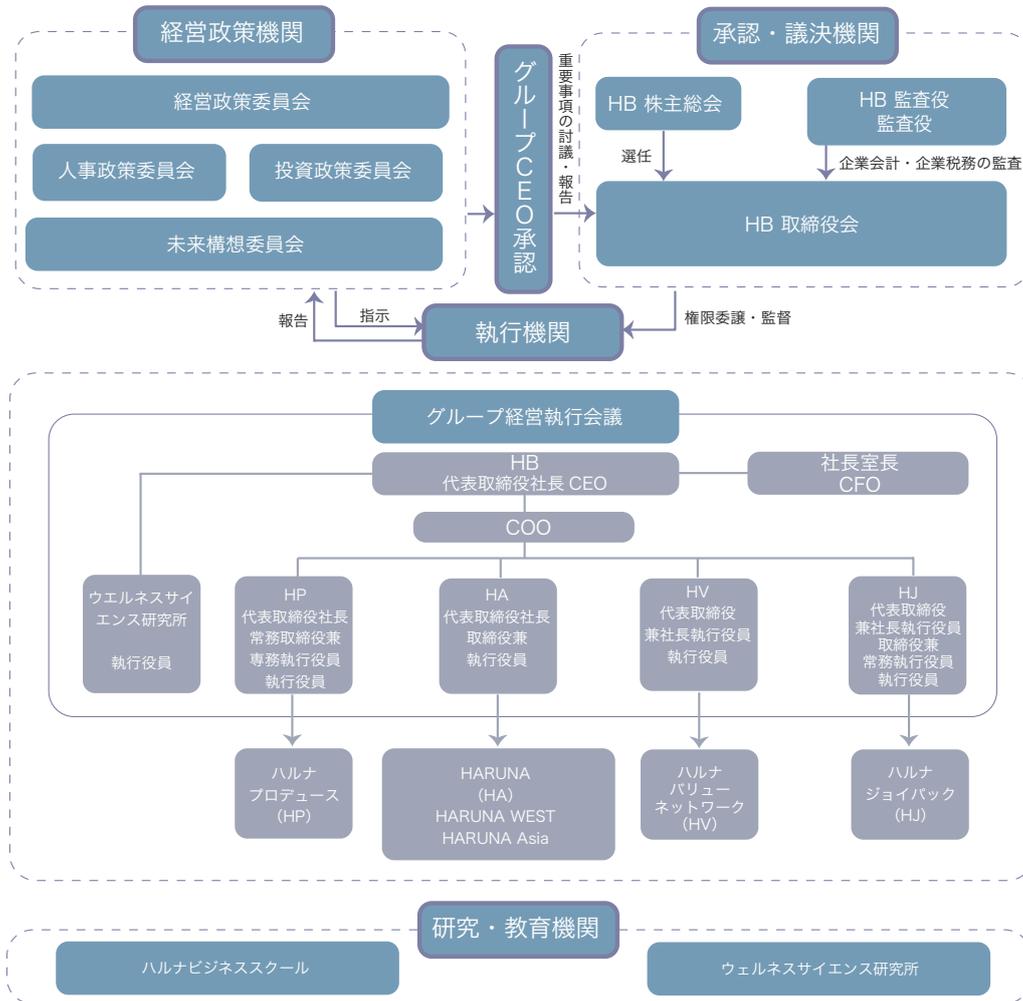
顧客志向を経営の核として
顧客評価に値する品質とは何かを問い
顧客思考を超える製造とは何かを考え
顧客歓喜の果実を己の収穫とする

●ハルナグループの目指す姿

- ・独創性ある飲料プロデューサーとして、ステークホルダーの皆様から大いなる期待と満足を得られる企業へ
- ・顧客満足度最高レベルに向けて・ステークホルダー皆様の幸せに向けて
- ・利益を伴う持続的成長に向けて

ハルナグループはビジョンに掲げた理念の実践のため、ハルナグループ企業行動指針に基づき法令遵守、社会倫理の遵守を全ての役員・社員の行動規範とする。

コーポレート・ガバナンス体制



ガバナンス

～非常勤取締役からの御意見～

中長期的視点でのコーポレートガバナンス



小出 信介 様

ハルナビレッジ (株) 元代表取締役社長
小出公認会計士・税理士事務所代表
明光監査法人代表社員

コーポレートガバナンスにとって重要なことは、如何に一つひとつの小さな信頼を積み重ねていくことができるか、を考えていくことだと思います。従業員、顧客、取引先、金融機関、株主、そして地域社会など多くのステークホルダーの方と協働するなかで、どのようにして信頼される行動を積み重ねられるか、それを組織として継続的に追求していくことがコーポレートガバナンスとしての要点であるべきでしょう。

上場会社にはコーポレートガバナンスコードの適用、もしくは説明責任が求められるようになっていますが、そこにおいても多様なステークホルダーとの協働関係と中長期的な企業価値の創出が明記されています。ハルナグループでは創業当初から、そこを念頭に置いた活動をしてきていると思いますので、今後もその理念を承継し発展していくガバナンスが求められていると思います。

～社外取締役からの御意見～



須齋 嵩 様

国立大学法人宇都宮大学客員教授
国立大学法人群馬大学元教授

SRR に寄せて

あの苦闘中の大手 T 電機は、2005 年から CSR を発行していたが、何かが欠け残念ながら絵に描いた餅になってしまっている。

そして最近、“リスクゼロ”の考えが注目されているものの、HACCP の思想で建設されている豊洲市場が危険であるとの説もあるが、海外の見学者を直接せりの場に入れている様子や一説によると鳩等の鳥やネズミが巢食っている築地市場では、どちらが良いのか瞭然としていると思いますが？ 我々の思考を原点に立ち戻って考える場を与えている。

社会的責任を履行する ISO26000 が 2010 年に発行され、2012 年に JIS 化された。また、わが国では、2015 年にコーポレートガバナンス・コードが法制化された。主要内容は、

- ① 株主の権利・平等性の確保
- ② 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- ③ 適切な情報開示と透明性の確保
- ④ 取締役会等の責務
- ⑤ 株主の対話に関する指針

が示されている。当社は、それ以前の 2008 年から先進的に SRR を発行している。例えば、四半期毎にステークホルダーの皆様へ報告会を実施し、情報開示をしている。上記のコードの 5 項目を丁寧に励行していることは評価できる。

今後とも、立案した方針、目標を愚直に、かつ丁寧に完遂していくことだと思っている。



岡 俊明 様

サッポロビール飲料（株）元代表取締役社長
大妻学院理事
日本オリンピック協会理事

これからのコーポレートガバナンス

企業が不祥事を起こす度に耳にするのが、コーポレートガバナンスです。この言葉にこれと言った定義がある訳ではなく、いろいろ解釈されがちです。一言でいえば「健全でより良い企業経営を行うための仕組み」と言っているのかもしれませんが。

これまでのコーポレートガバナンスは、「適法な経営を行うための仕組みづくり」と捉える傾向がありましたが、適法といった法的責任だけで果たして市場から良い会社と評価されるのでしょうか？ 社会にとって真に必要な会社、なくてはならない会社、ないと困る会社を目指してもらいたいものです。

法令順守。社会的責任の最低次元として法的責任があります。ハルナグループは有益な商品、サービスの提供を通し人々の生活に潤いと豊かさに貢献し、その結果、企業パフォーマンスと企業価値向上に資する。適正利益をあげ社会、株主、社員に還元する等、経済的責任を果たすことが大切となります。これら法的、経済的責任を果たして初めて、あらゆるステークホルダーからの信頼される誠実な会社、倫理的責任も果たせることになるでしょう。

さらには、環境対応はもとより公益的活動等の社会貢献活動に一層注力しなければなりません。これらを実現するための仕組みづくりはもとより、経営幹部をはじめ社員一人一人の仕事に対する熱い思い、高い志が何よりも大切かもしれません。

● ● ● ステークホルダーからのご意見 ● ● ●

事業の三要素 「ヒト、モノ、カネ」の重要性

事業の三要素は、「ヒト（人）、モノ（物）、カネ（金）」と言われてきました。会社にとってヒトは、社員（人材）のことです。モノとは商品、製品を生み出す材料、原料のことです。カネは、ヒトを雇用するにしてもモノを買うにしても資金となる資本のことです。どれが一つ欠けても事業の成功は危ぶまれます。

ハルナビバレッジ株式会社を例にとれば、ヒト（社員）については、企業内にビジネススクールを開校し、社員の人材教育に大きな力を注いでおり、優秀な人材を育てています。モノ（物）、製品の原料の水については、非常に恵まれた環境にあり、最高の品質であろうと思います。また、カネ（金）については、四半期ごとに企業報告会を開催し、経営方針、経営内容を株主、金融機関、従業員、取引先等利害関係者にディスクローズしています。

企業は成長していくためには、まず売上を増やさなければなりません。だからと言って、多くの資本を投下し、量の拡大を求めることは、逆に多くのリスクを伴うこととなります。適正な資本で利益を増やすことが大切です。カネ（資本）の効率的な使い方です。製品の付加価値の向上を図ることによって収益力を引き上げることが大切です。優秀な社員を育成し、最高の素材を使い、製品を作ることによって無限の付加価値を生み、企業価値を高めることが可能です。

企業内容をディスクローズすることは、企業としての社会的責任を果たしていくことになり、企業の成長性、収益性、安全性、健全性を確保することにつながります。ハルナビバレッジ株式会社は、創業者・青木清志氏の創業の理念が次の時代に向けての後継者、役員、社員に引き継がれており、改めて敬意を表します。



群馬テレビ株式会社
代表取締役社長
武井 和夫 様

～ご意見をいただいて～

この度はご寄稿ありがとうございました。武井様は群馬銀行時代から今日まで、弊社の報告会等に足をお運びくださり、常日頃よりお心にかけていただき、大変感謝申し上げます。これから弊社も「ヒト」「モノ」「カネ」のバランスをしっかりと取りながら、皆様に信頼していただける企業を目指し努力していきたいと存じますので、これからも末永くよろしくお願い申し上げます。



ハルナビバレッジ株式会社
常務取締役 CFO
栗原 健一

■ ■ ■ 環境経営 ■ ■ ■

ハルナグループでは、「環境」を経営上の重要なテーマの一つとして、より効率的なエネルギーの利用、産業廃棄物の排出量削減、社会貢献活動を含めた環境経営の活動を積極的に進めております。

現在、地球上では気候変動や公害などの環境問題が大きな問題になっております。ハルナグループでは、地球温暖化にかかわるエネルギー利用の改善を重要な課題と位置づけ、環境への負荷低減の考えからボイラー燃料を重油から LNG や都市ガスへ燃料転換してきました。また、エネルギー使用量の削減にも積極的に取り組み、ボイラーのより効率的な運転への改善、蒸気を使用する熱源からの放熱ロス削減対策、生産機器の運転効率の改善による電力使用量の削減、高効率な電力機器への更新などを行っております。

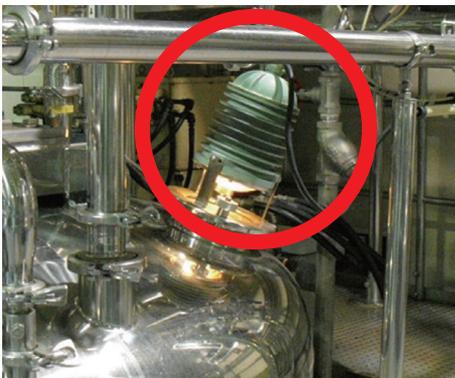
今後も環境に配慮した生産活動の推進に向け、社員一丸となって取り組んでまいります。

2016 年度に行った主なエネルギー使用改善対策の取り組み

■ 電力使用量等の削減

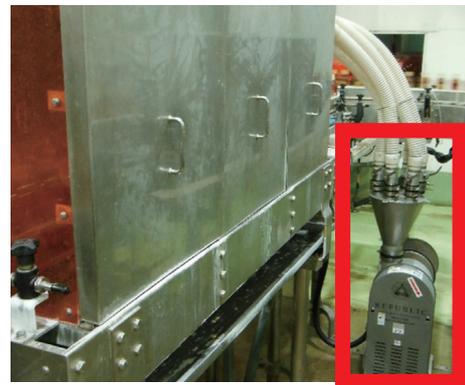
■ 各種タンク用照明の LED 化

各種タンク用の照明を LED に変更することによる電力使用量の削減を実施。



■ 水滴除去装置ブロアエア化（第2プラント）

第2プラントにおいて、エアブローワーを導入し水滴除去装置で使用するエアをコンプレッサーエアからブロアエアにすることによる電力使用量削減を実施。



■ 抽出器制御変更による純水・井水の節水化

第3プラントにおいて、抽出冷却工程の制御変更（純水・井水）することによる電気・水使用量削減を実施。



■ ボイラー制御変更による効率化

ボイラーにおいて、運転台数を減らすことによる電気使用量削減及びボイラー効率アップを実施。



環境会計〈2016年度の実績〉

※ハルナプロデュース・ハルナジョイバックのプラントの合計値です。

インプット

■エネルギー原油換算 電力・LNG・都市ガス・灯油



アウトプット

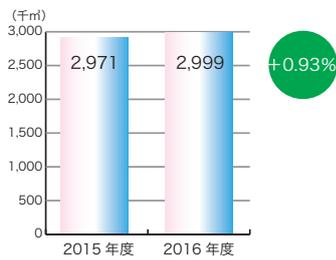
■二酸化炭素 (CO₂)



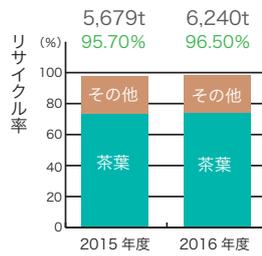
■窒素酸化物 (NO_x)



■水資源



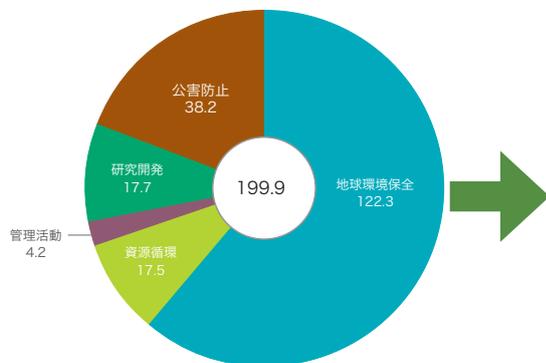
■排出物



※その他には、金属、紙類、硬質樹脂容器、ドラム缶・一斗缶、ペットボトル、可燃物・不燃物、フィルム樹脂・PPバンド、段ボール、汚泥、珪藻土が含まれます。

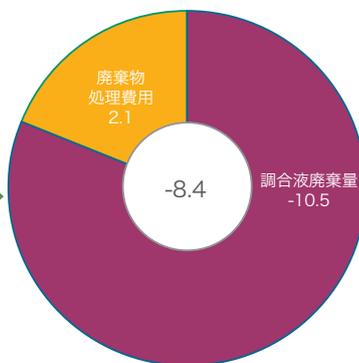
■環境保全コスト

(単位：百万円)

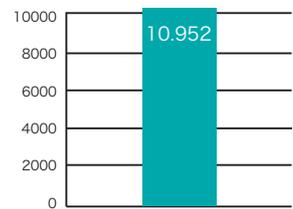


■環境保全効果の金額換算

(単位：百万円)



■CO₂ 排出量 (単位：千円)



■NO_x 排出量 (単位：千円)

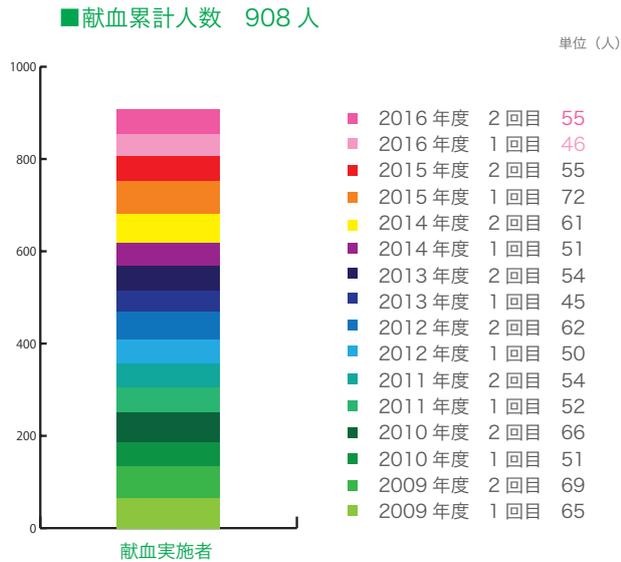


※上記共に、原単位当たりの使用量から算出しています。

2016 年度社会貢献報告

献血活動

2009 年度から群馬県赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を開始し、2016 年度までの累計で 908 人の献血を実施いたしました。今後も定期的が続けていきます(2015 年度からはハルナジョイパックも参加しています)。



献血の功労 (回数) に対して、日本赤十字社様より記念品が渡されます。タニガワPで10回に到達した方の記念品。



エコキャップ推進活動

ペットボトルのキャップで、世界の子供たちを病気から守るエコキャップ活動に参加しています。2016 年度までの累計で 574,844 個のキャップを NPO 法人エコキャップ推進協会に寄付いたしました (キャップ 860 個でポリオワクチン 1 人分)。



2009 年から「NPO 法人エコキャップ推進委員会 (ワクチンで支援) を始めて、累計で 574,844 個寄付しました!

■地域清掃活動

ハルナグループでは、CSR活動として地域社会に貢献する取り組みを行っています。地域環境保護の一環として、河川や用水路の清掃活動もそのひとつです。全社員で工場周辺の川などのゴミ拾いといった清掃を定期的に行うことで、周辺地域の美化に努めています。



■榛名山ヒルクライム in 高崎に協賛

ハルナグループの創業の地・榛名地域にて、毎年春に開催される榛名山ヒルクライム in 高崎に第1回から協賛をしています。群馬県榛名山の特性を活かした自転車競技を通じ、高崎市を広く全国にアピールするとともに、地域住民のボランティア等への積極的な参加、協力による地域の一体感の醸成の下、活力あるまちづくりをめざすことを目的とした競技会で、地域の活性化を推進しています。



■群馬ダイヤモンドペガサス スポンサー契約

プロ野球独立リーグ「ベースボール・チャレンジ・リーグ」に所属する群馬県のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサスのスポンサー契約をしています。加盟された2008年からスポンサー契約を続け、チームは6期連続半期優勝(2016年現在リーグ最長記録)を含む3年連続地区優勝、4年連続地区チャンピオンシップ出場を達成したチームとなりました。ハルナグループはプロスポーツ文化を通じて地域の活性化に貢献し、今後も幅広い領域で協力関係を築いていきます。

